テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.3)　サブストーリークエスト

事件屋編

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

秤量される金と心

エリー ： いいところに来たわね！　予告状に書かれていた「るり色の乙女」の調べがついたわよ。
ミスリルアイの情報網を使えば、こんなの楽勝なんだから♪
その「るり色の乙女」と呼ばれているのは「アラベラ」さんね。ウルダハの富裕層ではよく知られた令嬢で、
青い髪と青い瞳が特徴的な、絶世の美女……って噂よ。
というのも、噂だけは有名なんだけど、彼女は、いわゆるガッチガチの「箱入り娘」なの！
表舞台には滅多に現れないんですって。
でも、彼女に接近する大チャンスがあるわ！　それはコスタ・デル・ソルで開催される、大手商会主催のパーティーよ。
どうも、リムサ・ロミンサの大手商会の次期会長が、アラベラさんとの婚約を発表するらしいの。
……彼女が表舞台に立つ、めったにない機会ね。
どう？　予告状を出してきた、「怪盗白仮面」が狙いそうだと思わない？　私の勘って、結構当たるのよね。
まずは、今回のパーティーの主催者のひとり、アラベラさんの父「ググレム」氏に、話を聞きましょう！
コスタ・デル・ソルに向かうわよ！

エリー ： 彼が、アラベラさんの父であるググレムさんね……。さっそく話を聞いてみましょう。

ググレム ： な、なんですかね、君たちはっ！　これから大切なパーティーがあるのです。一般の方はお帰りを……。

エリー ： 私は「ミスリルアイ」の記者、エリーと言います。「怪盗白仮面」の予告について、取材に伺いました。

ググレム ： ああ……「ミスリルアイ」の特集記事は読んでおります。記事中の予告状の文言を読み、
すぐに、私の娘が狙われているとわかりましたよ。
アラベラは、今日まで大切に育てて参りました。娘に求婚する豪商は、サゴリー砂漠の砂の数ほどおりましたが、
そ奴ら同様、「怪盗白仮面」には指一本触れさせませんよ。
当然、そのための準備は万端です。銅刃団の選りすぐりの腕利き「ガーベラ連隊」を、今日のために特別に編成したのですから。

ブリアルディアン ： 娘が大事ならば、即刻パーティーを中止にするべきだ。「怪盗白仮面」は、必ずこの場を狙う。

ググレム ： いくら、クルザスの事件屋男爵のお言葉とはいえ、中止だなんて、とんでもありません。
すでに、大手商会の方々を、たくさん招いているのですから。

ブリアルディアン ： ……どうしてもパーティーを決行するというのであれば、事件屋として捜査をさせていただこう。
ぼくは、「怪盗白仮面」の行動を予測することができる。

ググレム ： ふむ、そこまで自信がお有りなら、助力を願いましょう。ただし、パーティーを台無しにするのだけはやめてください。
途方もない大金がかかっているのですから……。

エリー ： 娘の安否より、商売の心配か……。まったく、ウルダハの商人らしい考え方ね。
ところで、今回はずいぶん自信があるみたいじゃない。……ブリアルディアン君？

ブリアルディアン ： 「怪盗白仮面」の性格は、前回の一件で掴めた。予告状を突きつけ、衆目の前で狙いの品を奪う手法。
……これらの事実から導き出される結論は、ただひとつ。
犯人は、自信家で自己顕示欲が高い人物だ。今回も、前と同じ手法でアラベラを狙おうとするだろう。
調査を、パーティーでアラベラに近づく予定の人物に絞る。
婚約者の「ヴァンネス」はもちろん、もうひとりの主催者でもある彼の父、「モルガント」も要注意だ。
来賓「ヤルト・ノルト」と、その嫁「サイナナ」。彼らは婚約発表での挨拶を任されているそうだ。
彼女の父である「ググレム」は言わずもがな、彼の召使「レウェンハート」は、アラベラの世話係らしい。
彼らは数日前から、すでにこの会場入りしているそうだ。……「怪盗白仮面」の性格からして、
すでに変装して紛れ込んでいる可能性が高い。
この容疑者の中に「怪しい人物」がいないか調べよう。さぁ、ポンコツ事件屋が来る前に、なんとか決着を……。
事件屋ヒルディブランド……。貴様、何をしている……！

ヒルディブランド ： わ、私は、捜査を円滑に行うため、目立たぬ姿で聴きこみをしようとしただけですぞ……。
ハァハァ……しかしブリ殿、さすがは同じ事件屋。私の完璧な変装を見破るとは、なかなかやりますな！

エリー ： 一番「怪しい人物」だったわよ……。

ヒルディブランド ： 話は全て聞きましたぞ！　か弱い女性が標的である以上、失敗は許されません！
ライバルとはいえ事件屋同士、協力も必要となるはずですぞ！

ブリアルディアン ： 君と同格に扱わないでほしいところだが……。まぁ、「部分的」な協力をすることに異論はない。
では、ヒルディブランド。君は容疑者たちの様子を観察していたまえ。その代わり……余計なことはするなよ？
パーティー開始には、まだ時間がある。ぼくは、「もうひとつの筋」から調査を行うとしよう。
……ボンコツ事件屋はさっさと着替えろ。
それと……君には、少し手伝ってもらいたいことがある。

エリー ： ブリアルディアン君ったら、あなたのことを随分評価してるみたいね。

ヒルディブランド ： ここで冒険者殿と再会することは、私の計算どおりっ！　るり色の乙女……アラベラ殿を守りぬき、
「怪盗白仮面」を見事捕らえてみせましょう！

ブリアルディアン ： さて、現場は、ポンコツ事件屋コンビに任せるとして……　君には、もうひとつの手がかりの調査を手伝ってもらいたい。
……そういえば、君の名前を聞いていなかったな。
……ふむ、◇◇◇、君に問おう。君は前回、「怪盗白仮面」がドリルダに変装しているのを見て、なにか気になった点はあるか？
外見が本人そっくりだった点

中身が本人そっくりだった点

答えない
中々注意深い冒険者だな。それとも、何か考えがあるのか……。……まあどちらでもいい。

ブリアルディアン ： ドリルダへの変装で、注意すべき箇所は2点。ひとつは、姿がそっくりだった点。
……もうひとつは、口調や立ち振る舞いまで似ていた点だ。
前者については、特殊なプリズムを用いて、幻影を投影したマスクで変装していたことが判った。
……製法は不明だが、問題はそこではない。
ぼくが気になっているのは、口調や立ち振る舞いの完成度だ。どんな道具を使っても、本人の中身を模すことは不可能……。
おそらく「怪盗白仮面」は、変装する相手の情報を事前に、かなり綿密に集めているのだろう。
そしておそらく、今回も同じ手口を使うはずだ。
今回のパーティーに関しては、重要な招待客が、3日前から現地入りしていたらしい。情報を集めるのに、十分な期間だといえる。
では、変装相手の情報を集めるために、「怪盗白仮面」がまず変装したのは、誰だと思う？
ガーベラ連隊

重要な招待客

答えない
まぁ、すぐには答えられないだろう。ぼくが推測するに、それはガーベラ連隊だ。

ブリアルディアン ： 彼らなら、人数が多いうえ、揃いの制服を着ているために、紛れ込みやすい。
さらに警備という名目で、要人に近づくこともできる。
……この予想を元に、聞き込みをしてみたところ、案の定、現在連絡が取れない隊員がひとりいるようでね。
この事実から導き出される結論は……もうわかるな？　そう、失踪した隊員が護衛する予定だった人物がわかれば、
容疑者を絞ることができる。
さて、前置きが長くなってしまったが、君に頼みたい「もうひとつの手がかりの調査」とは、この、失踪した隊員の捜索だ。
期間を考えても、そう遠い場所ではないはず。コスタ・デル・ソルの付近を探してみてくれないか？
無論、すでに死体となっている可能性もあるがな……。

ブリアルディアン ： ……さすがは冒険者だな。この手の仕事は、手慣れたものだ。

失踪したガーベラ隊員 ： た、助かっ……た……！　さすがにもう、死ぬかと思ったぜ……。

ブリアルディアン ： これで動けるはずだ。……君、状況を簡潔に説明してくれ。

失踪したガーベラ隊員 ： え、ええと……ここに到着して、護衛任務の説明を受けた後、何者かに襲われたんだ……。
目が覚めた時には、制服と配置図が奪われていた。

ブリアルディアン ： 命まで奪われずにすんで良かったな。ぼくたちに敢えて情報を残すつもりか、それとも……？
まぁどちらでもいい、君が護衛する予定だった人物を教えろ。

失踪したガーベラ隊員 ： た……しか……　モルガント様とヤルト・ノルト様だ。

ブリアルディアン ： そのほかに、君が接する予定だった人物はいないか？　失踪したガーベラ隊員：そうだな……レウェンハート殿だ。
パーティーの段取りや、準備の手伝いのため、頻繁にやりとりがあるはずだった……。
なるほど、貴重な情報に感謝する。
ぼくは、彼を安全な所に連れていこう。衰弱もしているようだしな。
君は、ボンコツ事件屋が変なことをしていないか、様子を見に行ってくれると助かる。
それじゃあ、またあとで会おう。

ヒルディブランド ： 冒険者殿との付き合いも、長くなってきましたな！　して、ブリ殿との調査はいかがでしたかな？
……なるほど。容疑者は、モルガント殿、ヤルト・ノルト殿。それに、レウェンハート殿……ですか。
こうしてはおれませんな。こちらから仕掛けていきましょう！
ハッハッハ、止めても無駄ですぞ。それに、私の頭脳が弾きだした計算によると、
ブリ殿にバレなければ、何をやっても問題……ナシ！
さあ、さっそく容疑者と接触しましょう。まずは向こうで会話中の、モルガント殿の所に向かいますぞ！

ヒルディブランド ： あれが、モルガント殿ですな。「怪盗白仮面」め、今すぐに私が見つけ出してみせましょう！
お待ちください、冒険者殿。我が家伝来の思考体操「マンダヴィル流交渉術」で培った、
私の巧みな話術に、この場はお任せください！
エリー殿、私の発言を記録する用意をお忘れなく！　私が華麗に「怪盗白仮面」を見つけ出す……
その歴史的瞬間を記録するチャンスですからな！

エリー ： 私は記事のネタを探しに来ただけで、あんたの発言を記録するつもりはないわよ。だってほら……紙の無駄だし。

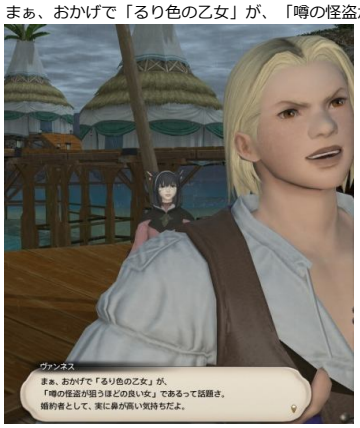
ナシュ・マカラッカ ： それじゃあ、ヒルディブランド様の発言は、ナシュがメモをとります～！

ヒルディブランド ： さすがは我が助手、それでは頼みましたぞ！
これはこれは、ググレム殿。アラベラ殿との婚約……おめでとうございます！

ググレム ： い、いきなり何ですか……。婚約するのは、私ではありませんよ。

モルガント ： ハハッ、噂の事件屋まで来たのかい。「怪盗白仮面」のせいで、ずいぶん大騒ぎになってしまったな。
ヴァンネス、婚約者としてはどんな気分かね？

ヴァンネス ： まぁ、おかげで「るり色の乙女」が、「噂の怪盗が狙うほどの良い女」であるって話題さ。婚約者として、実に鼻が高い気持ちだよ。



ヒルディブランド ： 鼻が……高い！？　ヴァンネス殿の鼻は、どう見ても……低い！　この認識の過ち、まさか彼が……「怪盗白仮面」っ！？

エリー ： ばっ……バカ！　「鼻が高い」っていうのは、「誇らしい」って意味よ！

モルガント ： ハッハッハ、さすが我が息子ヴァンネス。肝が据わっているようだな。

ググレム ： まさに、ブルゲール商会を継ぐに相応しい器量の持ち主です。アラベラの父としても、大口取引先の商人としても、
頼もしい気持ちでいっぱいですよ。
そうだ、先日ヴァンネス殿から贈られた首飾りも、アラベラはとても気に入っていましたよ。

ヴァンネス ： あんなのは、家にたくさんあるお宝のひとつさ。結婚したら山ほど贈ってやるよ、アハハ。

エリー ： ……あんたの巧みな話術どころか、ほとんど勝手にしゃべってたわね。それに、ヴァンネスもググレムも、偽物には見えないわ。

ヒルディブランド ： は……はっはっは、エリー殿、答えを急ぎすぎると、コジワが増えますぞ！
ここで決定的な証拠をつかめないのは、すべて私の想定どおり！

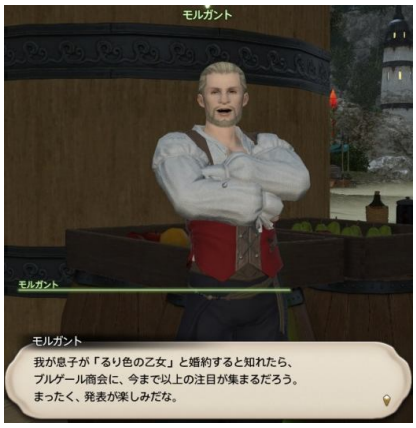
ナシュ・マカラッカ ： えーと、メモメモ……　「決定的な証拠はつかむことができない」
「すべては私の計算どおりに進んでいる」……っと～。

ヒルディブランド ： さあ、気を取り直しましょう！　今度はヤルト・ノルト殿と、レウェンハート殿の様子を見に行きますぞ！

モルガント ： 我が息子が「るり色の乙女」と婚約すると知れたら、ブルゲール商会に、今まで以上の注目が集まるだろう。
まったく、発表が楽しみだな。

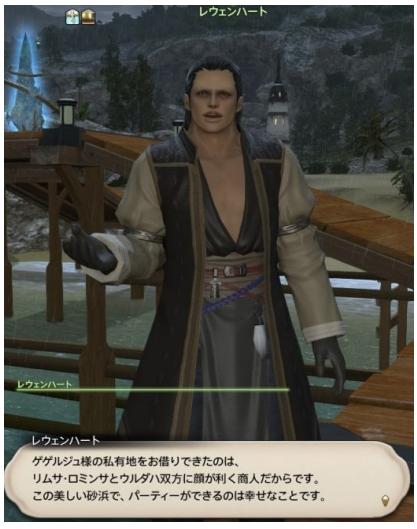
ヴァンネス ： ……気軽に話しかけてくんなよ。俺は、ブルゲール商会の次期会長様だぞ？

ググレム ： 手塩にかけて育てた娘が、ブルゲール商会の次期会長様に嫁げることになるとは。
親として、これ以上の幸せはありませんよ。



ヒルディブランド ： 彼らが、ヤルト・ノルト殿とレウェンハート殿ですな。このふたりの内のどちらかが、「怪盗白仮面」……！

レウェンハート ： ゲゲルジュ様の私有地をお借りできたのは、リムサ・ロミンサとウルダハ双方に顔が利く商人だからです。
この美しい砂浜で、パーティーができるのは幸せなことです。



サイナナ ： アラベラさんとお会いするのが、今から楽しみだわぁ。あのヴァンネス様の奥方となるのですから、
とても美しいに違いないでしょうねぇ。

ヤルト・ノルト ： おや、君たちも招待客かい？　見慣れない顔だが、東アルデナード商会側の関係者かね。

ヒルディブランド ： 関係者……まぁそのようなものです！

ヤルト・ノルト ： そうかそうか、今日はそちらの重役の箱入り娘さんと、我々ブルゲール商会の次期会長、ヴァンネス様の婚約パーティー。
お互い、楽しんでいこうじゃないか。
この結婚を以て、ふたつの商会は家族のようなものになるのだ。これまではライバルだったが、今後は共存共栄！
晶員にさせていただくよ。
最近は各地方に凶悪な魔物が現れて、グランドカンパニーの連中も騒いでいるだろう？　当然、商売への影響も出始めている。
特に、うちは「マンドラーズ」による農作物被害が深刻でね。市場への供給が安定していない状態だが、
そちらの商会には優先的に……。
……おや、「マンドラーズ」のことをご存知ないかな？

ヒルディブランド ： ……い、いえ……アレですな！　し、修行僧「モンク」の特定の体術を、集団になって行う……！

エリー ： 「マンドラーズ」っていうのは、凶悪なマンドラゴラの集団よ。野菜ばっかり狙って奪うって、最近話題じゃないの。
たまには、ミスリルアイを読みなさいよね。
あと……あのね……体術「マントラ」を会得したモンク集団、「マントラーズ」とかじゃないから……。
……ツッコミを待たないでくれる？　言う方も恥ずかしいのに。

レウェンハート ： 確かに、「マンドラーズ」は厄介ですね。実は、今回のパーティーの準備中にも現れたのです。
応戦も虚しく、かなりの食材を盗まれてしまいました……。
……ああ、どうかご心配なく。つい先程、追加分を届けていただきましたので、料理は十分に用意することができます。

ヤルト・ノルト ： ハッハッハ、それは良かった。パーティーの開幕が、より楽しみになってきたよ。

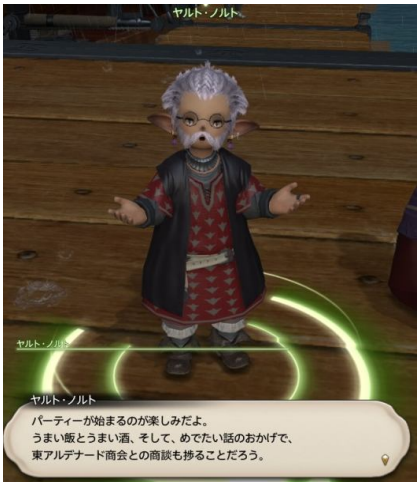
ヒルディブランド ： ヤルト・ノルト殿もレウェンハート殿も、違和感がありませんな。このままでは、「怪盗白仮面」の予告は止められませんぞ……。
とはいえ、新たな被害者を出さぬためにも、まずはアラベラ殿を守りきらねばなりません。
それに、素敵な紳士は、乙女の味方と決まっていますからな！

ナシュ・マカラッカ ： わわ、ヒルディブランド様、話すの早いです～。ええと、「怪盗白仮面の予告は止められない」……。
「新たな被害者」……「決まっている」……っと。

エリー ： だ、だいぶ端折ったわね。
……それで、次はどうするの？　早くしないと、ブリアルディアン君が戻ってきちゃうわよ。

ヒルディブランド ： レウェンハート殿が言っていた「追加の食材」を調べます。そこにあるのが食材でなければ。
彼の情報が「嘘」だということになりますからな！
さぁ、ブリ殿が戻る前に急いで出発しますぞー！

ヤルト・ノルト ： パーティーが始まるのが楽しみだよ。うまい飯とうまい酒、そして、めでたい話のおかげで、
東アルデナード商会との商談も捗ることだろう。



ナシュ・マカラッカ ： 海、しょっぱいです～！　それに、潮風が鼻に入って……むずむずします～！

エリー ： な、なんか、変なもの混ざってない……？

ヒルディブランド ： レウェンハート殿が注文した食材は、これのようですな。
食材の入った木箱……と、よく熟れたヤシの実がたくさん……。
こ、これは……！？
ヤ、ヤシの実に紛れ込んで、爆弾が！？　やはり、レウェンハート殿が「怪盗白仮面」で、彼が用意を……！

ナシュ・マカラッカ ： ナシュが置いておきました～！　ここ、荷物置き場かなぁと思って～！

ヒルディブランド ： ナシュ、なんて物を持ってきたのですか……。爆弾なんて使う機会はありませんぞ！

ナシュ・マカラッカ ： え～、使わないんですか～？　じゃあもしかして、さっき拾った木の棒も使いませんか？

ヒルディブランド ： 残念ながら不要ですぞ。さぁ、流木はその辺りに捨てて、今回は記録係に徹してください。
あーあ……。これ、ブリ殿が見たら絶対に怒りますな……。
それに、誰かがうっかり火種を落としたら、爆発して死んじゃいますぞ？　さぁ、急いで爆弾を片付けねば……。

ナシュ・マカラッカ ： ええと「ブリアルディアンは爆発して死んじゃいます」　……よし、ちゃんとメモできました～！

エリー ： ……メモを端折りすぎて、ブリアルディアン君の殺害予告みたいになってるわね。
……って、ブリアルディアン君が戻ってきたわよ！
アンタたちは、見張りを続けてることになってるんだから、早く隠れたほうがいいんじゃない？

ヒルディブランド ： し、しかし、爆弾を置いたことがバレたら、もっと怒られますぞ……！？

エリー ： まぁ、私もアンタの捜査を止めなかったし……。じゃあ、私たちがブリアルディアン君を引き止めるから、
アンタたちは隠れていなさいよ。

ヒルディブランド ： さすがエリー殿、頼りになりますな！　爆弾は、ブリ殿を離した後に回収しましょう。
それでは、後はよろしく頼みましたぞ……！

がんばる二人の事件屋

ブリアルディアン ： ……フン、ポンコツ事件屋は大人しくしていたようだな。

エリー ： え、ええ……多分。そういえば、なにか新しくわかったことはある？　落ち着ける所に移動して、ゆっくり聞か……。

ブリアルディアン ： ああ、現状について、君たちふたりに話しておきたいことがある。そうだな……そこの木箱が置いてある場所で話そう。

エリー ： ええっ！？　よりによって！？　……せ、せ、せっかくの綺麗な海なんだから、もう少し景色がいい場所のほうがいいんじゃない？

ブリアルディアン ： 遊びに来ているわけじゃない。それに、日との目が届かない場所の方が好ましい。

エリー ： あ、あはは……そ、そうね……。
だ、だ、大丈夫。彼に爆弾が見つからないよう、うまく立ち回りましょう。

エリー ： も、もうちょっと敷地よりの場所のほうが……。
ね、ねえ、ブリアルディアン君。ほら、この辺りはちょっと冷えるし……　やっぱり、別の場所のほうがいいんじゃない？

ブリアルディアン ： ……話はすぐ終わる。悪いが、少しだけ我慢してくれ。

エリー ： あ、ああ……ええ……少しならね……。

ブリアルディアン ： ◇◇◇の協力もあり、容疑者はモルガント、ヤルト・ノルト、レウェンハートに絞られた。
それぞれがアラベラに接触する前に、ぼくら3人で、見張りの役割を分担したいのだが……。
……ふたりとも、聞いているか？

エリー ： ……あ、ええ！　も、もちろんよ。

ブリアルディアン ： ふむ、エリーの顔色が悪いな。……確かに、少し風が強くなってきたようだ。それでは別の場所に……。
ああ、それよりも、火を起こしたほうがいいか。そのほうが、冷えた体を温めるだろう。
……さて、火を点ける物があるといいのだが。

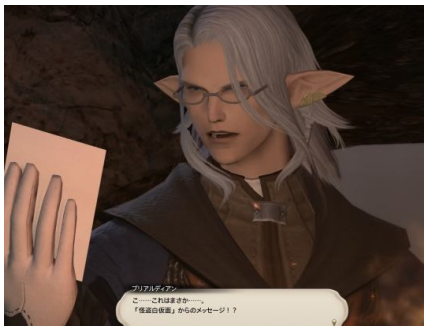
ヒルディブランド ： ハ、ハッハッハ……甘いですなブリ殿。この海岸線において、そんな都合のいいものは……皆無！

ブリアルディアン ： ちょうどいい、流木があった。ぼくがイシュガルドで愛用していた火打ち石で、すぐに火をおこそう。

ヒルディブランド ： ま、ま、まだ慌てることはありません。私の計算によると、几帳面なブリ殿が、種火をうっかり落とす確率は……絶無！

ナシュ・マカラッカ ： さすがヒルディブランドさま～！　そうだ、これもちゃんと記録をしておきますね～！
……わわわ、潮風が～！

ブリアルディアン ： ……ん？　なんだ、この紙片は。
「決定的な証拠はつかむことができない」「すべては私の計算どおりに進んでいる」
こ……これはまさか……。「怪盗白仮面」からのメッセージ！？



エリー ： ア、アハハ、そんなわけないじゃない……。ほら、いつもの予告状のカードじゃないし、誰かのただのメモ書きよ、きっと。

ブリアルディアン ： いや、「怪盗白仮面」の性格ならば、あり得る挑発だ。……あと2枚あるようだな、見てみよう。
「怪盗白仮面の予告は止められない」「新たな被害者、決まっている」
やはり、やつからのメッセージか。チッ……だいぶ調子に乗った挑発だ、ふざけたマネを。
いったい、新たな被害者は誰だというのだ……！

エリー ： 最後の……1枚の内容って……。た、た、確か……！

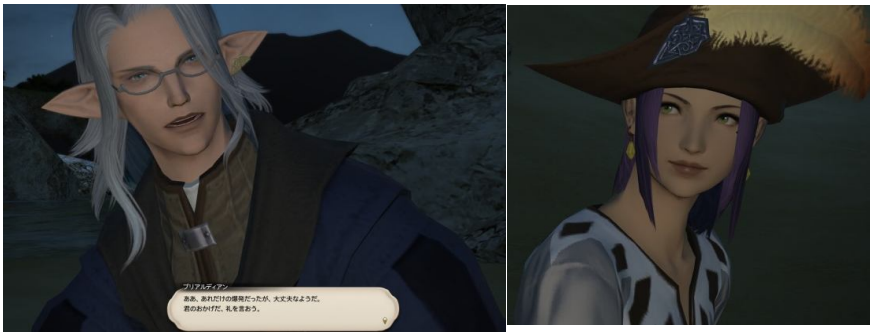
ブリアルディアン ： 「ブリアルディアンは爆発して死んじゃいます」

ブリアルディアン ： う、うわあああああああ！！！

ブリアルディアン ： 荷物の中に爆弾が隠されていることを、君は見抜いていたのか……。

エリー ： え、ええ……まあね……アハハ。……怪我はない？

ブリアルディアン ： ああ、あれだけの爆発だったが、大丈夫なようだ。君のおかげだ、礼を言おう。
……ヒルディブランド。君は、この爆弾を仕掛けた「怪盗白仮面」を見ていないかな？



ヒルディブランド ： え、ええ……「怪盗白仮面」らしき人物は見てませんぞ。

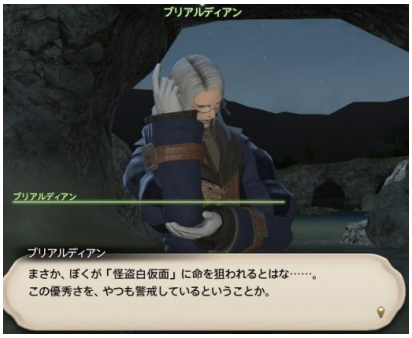
ブリアルディアン ： フン、まあいい。やつは、人殺しも厭わないということがわかった。恐ろしいやつだ、より一層注意をはらう必要があるな。

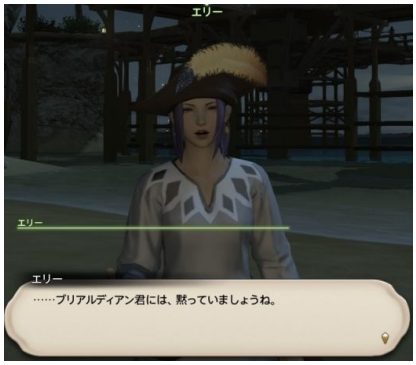
ヒルディブランド ： そ、そうですな！　注意は大事ですな、注意は！

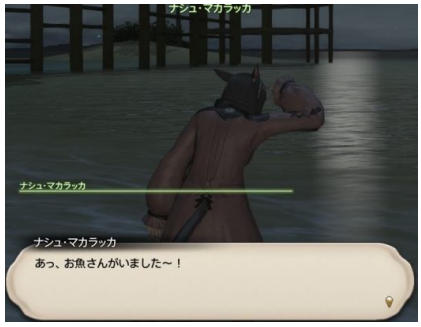
ググレム ： す、凄い音がすると思ったら、何をしているのですか！　あああ、届いたばかりの食材が、台無しではありませんか！
事件屋というのは、「事件を増やす仕事」をしているのですか！？　レウェンハートに伝えて、食材の補充を頼みますよ！！

ブリアルディアン ： まさか、ぼくが「怪盗白仮面」に命を狙われるとはな……。この優秀さを、やつも警戒しているということか。

エリー ： ……ブリアルディアン君には、黙っていましょうね。







ヒルディブランド ： ブリ殿のことは、なんとかごまかせましたな……。しかし、食材が犠牲になってしまいました。
レウェンハート殿の所に相談に向かいましょう。

ナシュ・マカラッカ ： あっ、お魚さんがいました～！

レウェンハート ： な、なにか凄い音がしましたが……。どうなさいましたか？

ブリアルディアン ： 「怪盗白仮面」が、食材に仕掛けていた爆弾が爆発した。そのため、一部の食材が無くなってしまってね。
ググレムが君に、食材の補充をするようにと言っていたよ。

レウェンハート ： か、怪盗白仮面、なんて恐ろしい……！
……しかし困りました、元々用意していた食材は、「マンドラーズ」に奪われてしまっています。
あれらの珍しい食材は、今から注文しても間に合わない……。

ブリアルディアン ： それは、どういった品だ？

レウェンハート ： 一番珍しいのは、近東伝来のスパイス「紫竜辛子」…… 目の冴えるような「紫色」のドラゴンペッパーです。

ヒルディブランド ： はっはっは、小さなマンドラゴラの集団ごとき、この私が一瞬で倒して、盗品を取り返してみせましょう！

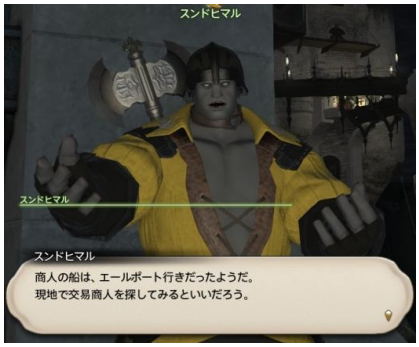
レウェンハート ： いえ、奴らは普通のマンドラゴラとは全く違います！ 「マンドラーズ」は、凶暴、凶悪、無慈悲な連中……。
ガーベラ連隊でさえも、追い払うのがやっとのほどでした。

ヒルディブランド ： えっ、あっ、ガーベラ連隊も……ですか。ふーん……。
はっ……冒険者殿の眼が語っている……！？ 「マンドラーズは私が倒す」……と！？ そこまで言うのなら仕方ありませんな。

レウェンハート ： そ、それでは冒険者さん！ 盗品の回収をお願いいたします！
お野菜集団「マンドラーズ」については、リムサ・ロミンサのイエロージャケット、「スンドヒマル」さんが詳しいはずです。

ヒルディブランド ： 冒険者殿をひとりにするわけにはいきません。私もリムサ・ロミンサに向かいましょう！

スンドヒマル ： おう、話題の「マンドラーズ」を追っているのか。しかし残念だったな、一歩遅かったようだ。
奴らは、どこからか盗んだ荷物を抱えたまま、野菜に扱して交易商人の積荷に潜り込んだのだ。
気が付いた時には、商人の船は出港していてな……。
我々も捜索してはいるが、冒険者のほうが身が軽いだろう。お前たちが先に見つけたら、とっちめてやってくれ。
商人の船は、エールポート行きだったようだ。現地で交易商人を探してみるといいだろう。



ヒルディブランド ： 西ラノシアのエールポートなら、漁師ギルドの近くの船着場から向かうと早そうですな。では、さっそく出発しましょう！

小柄な交易商人 ： あわわ、アンタ聞いてくれよぉ！　都市で仕入れた野菜を降ろそうとしたら、樽の中からいきなり「マンドラーズ」が出てきたんだ！
その時、目にトマト汁を飛ばされちまってよぉ……。目を押さえている間に、俺の仕入れた野菜を奪って、
幻影諸島に渡っちまったみたいなんだ。
ただでさえヤバいヤツらだ……　誰か「マンドラーズ」を止めねぇと、とんでもないことに！！

語られし理由

小柄な交易商人 ： アンタ、話を聞いてくれるのか！　「マンドラーズ」は、農業関係者を襲って作物を奪い、
代わりにマンドラゴラの苗を植えていくんだ……！
ヤツらは、ヒトと植物の支配関係をひっくり返して、野菜国家……いわば「マンドラ帝国」を創ろうとしてる、
凶悪な魔物なんだよぉ！
このままじゃ、幻影諸島もマンドラゴラだらけだ！　誰か、マンドラーズを止めねぇと……！
……そういえば、隣の目立つムキムキマッチョ、どこかで見たことがあるなぁ……。
あれは確か、経済誌「ミスリルアイ」の、怪盗特集記事に載っていた……事件屋の似顔絵？
……そうだ、「事件屋ヒルディブランド」だ！
そのお仲間の冒険者ということは……。アンタ、武器怪盗「ギルガメッシュ」を倒した冒険者か！？

はい

いいえ
はっはっは、照れてるのかい？　隠すことはないさ。武器怪盗の事件は、リムサ・ロミンサでもちょっとした話題だよ。
世間を騒がせた武器怪盗を倒すほどの力を持ってるなら、きっと「マンドラーズ」も倒せるだろう！？
たのむ、幻影諸島に向かってヤツらを倒し、野望を止めてくれ！
俺の今回仕入れた野菜はどうなってもいい。ただ、このまま被害がでかくなるのは避けたいんだ！
それに、マンドラゴラだらけになるのは、もっと避けたい！
幻影諸島にマンドラゴラの苗が埋められていたら、ガンガン引っこ抜いてくれよ！
仕事が無くなるのも、野菜帝国なんてのも、まっぴらだからな！

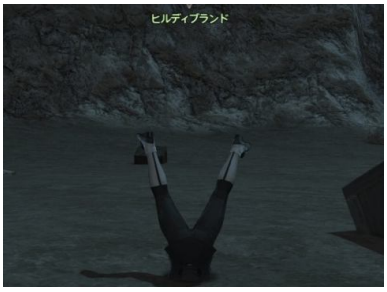
ヒルディブランド ： それでは、決戦の地「幻影諸島」に向かいましょう！　私は「マンドラーズ」を探しておきますので、
マンドラゴラの苗を抜くのはお任せしましたぞ！

遠くから聞こえる声 ： ○×▽……！　◎◎×△□！！

遠くから聞こえる声 ： ○○……？　×□○……。

遠くから聞こえる声 ： ×□♪◎×◎。□＄◎×△□◎◎……♪

ヒルディブランド ： くっ……不覚にも、発見したマンドラーズにやられました！　冒険者殿、気をつけてください……っ！
奴らは地中に逃げ込みましたぞ！



？？？？ ： △▽、○×□☆◇○ーー！！

ヒルディブランド ： さすがです冒険者殿、無事に荷物を取り返せたようですな！　それではコスタ・デル・ソルに戻りましょう！
……なぁに、私もすぐに追いつきますぞ、ハッハッハ。

ヒルディブランド ： ハッハッハ、先にコスタ・デル・ソルに戻っていましたぞ。地面から脱出するのは大得意ですからな！
さあ、レウェンハート殿に荷物を渡してあげてください。

レウェンハート ： 「マンドラーズ」に奪われた荷物は、取り戻せましたか……？
ああ、よかった。紫竜辛子は無事でしょうか……。

ナシュ・マカラッカ ： 少し、海水で袋が濡れちゃってますね～。レウェンハートさんの手袋がビショビショになる前に、
むこうで乾かしましょう～！

ヒルディブランド ： 冒険者殿が「マンドラーズ」を倒してくれたおかげで、再び「怪盗白仮面」の調査に戻ることができますな！

ナシュ・マカラッカ ： わわ、大変です～。スパイスの色が変わっちゃってます～！

ヒルディブランド ： な、なんですって！？　スパイスの色が変わる……それは……　新たなスパイス詐欺事件の予感！

ブリアルディアン ： これは……鮮やかな青が特徴の「蒼」竜辛子だ。レウェンハートが言っていた「紫」竜辛子とは違う。

ナシュ・マカラッカ ： でも、ちゃんと袋には、コスタ・デル・ソルの印がついてましたよ～？

レウェンハート ： あれ、おかしいな……。ははは、きっと僕が見間違えたのでしょう。

ブリアルディアン ： 青と紫を見間違えただって……？
それはもしや、ガーベラ連隊の「赤色のゴーグル」越しで、「真っ青なドラゴンペッパー」を見てたから……か？
やはり、そうだったか。あいつは、レウェンハートに変装した「怪盗白仮面」だ！

ヒルディブランド ： ……は、ハッハッハ、私の推理どおりっ！　さぁ、皆で偽レウェンハート殿を追いますぞ！！

ブリアルディアン ： 見つけたか！

ヒルディブランド ： ハッハッハ、私の推理どおり！　犯人は、海岸線沿いを逃げていましたな！
この事件屋ヒルティブランド、ブリ殿より先に、犯人をエスコーーーーット！！

ブリアルディアン ： ……フン、大蟹にでも絡まれたか？　無様な最後だな……さぁ、その馬鹿げた仮面を取ってやる。

レウェンハート ： あ……あなた方はいったい……！？

ヒルディブランド ： とぼけても無駄ですぞ、「怪盗白仮面」殿！

レウェンハート ： 怪盗……白仮面……。そ、そうだ、俺はガーベラ隊員に殴られて……！
そうだ、アラベラ様……アラベラ様は！？　彼女をワインポートまで迎えに行かなければ！

ブリアルディアン ： マスクはついてないようだ。ということは……本物のレウェンハートか？

レウェンハート ： ……ええ、そのとおりです。今朝、アラベラ様の所へ様子をうかがいに行こうとしたところ、
巡回に来たというガーベラ隊員に襲われたのです。
なんとか応戦しようと、奴の右手に一太刀浴びせたのですが……このザマです。

ナシュ・マカラッカ ： あ～、だからさっきのレウェンハートさんは手袋をしていて、本物のレウェンハートさんは手袋をしていないんですね～！

ブリアルディアン ： パーティーの開場まで、もうしばらく時間がある。「怪盗白仮面」は、別の人物に成りすまして、アラベラを狙うはずだ。
しかし、次の変装はやつにとって予定外……。おそらく、レウェンハートの変装ほどの完成度は見込めない。
どこかで必ず、ボロが出る。
特に、レウェンハートが負わせた右手の傷は重要だ。不自然に手を隠している者こそ、要注意だな……。
ぼくは会場に戻って、観客の手元を確認しよう。

ヒルディブランド ： それでは、私たちはワインポートへ向かい、アラベラ殿に会いに行きましょう！

？？？？ ： 君たちは、あの冒険者に仕返しをしたいんだね？
……なら、後で君たちが仕返しをするチャンスをあげる。その時がきたら合図をするから、それまで隠れていなよ。
まだゲームは続いてるよ。大いに盛り上げようじゃないか、事件屋さんたち……。
……さて、次は誰になろうかな？

ヒルディブランド ： 彼女がアラベラ殿ですかな？　噂どおり、美しい女性ですな！

レウェンハート ： アラベラ様、また勝手に外に出られて……！

アラベラ ： お花が綺麗だから見ていたかったのよ。フフ、レウェンはいつも心配症ね。

ヒルディブランド ： はじめまして、貴方が「るり色の乙女」殿ですかな？　私は、事件屋ヒルディブランドですぞ！

アラベラ ： まぁ、本物のヒルディブランド様ですか？　「ミスリルアイ」で拝見しております。
確か……「怪盗白仮面」様を追ってらっしゃるのですよね？

ヒルディブランド ： ええ、この事件屋ヒルディブランド、犯人からアラベラ殿をお守りするために参上しましたぞ！

アラベラ ： わあ、素敵！　ワクワクしちゃいます。フフフ、なんだかお姫様になった気分です。

エリー ： あら、思ったより楽しそうね。婚約パーティーが台無しになるかもしれないのに。

アラベラ ： ……今回は、私にとっては望まぬ婚約なのです。ヴァンネス様からは、一度だけ贈り物をいただいただけで、
お会いしたこともありません。
いただいたのは、この首飾り……。お手紙には「一生着けておくよう」と書かれていました。
……私にとっては、自由を縛る首輪のようなものです。

ヒルディブランド ： ムムッ！？　ヴァンネス殿と会ったこともないのですか？　それなのに、なぜ婚約を？

アラベラ ： 婚約自体は、10年前に父とモルガント様が決めたことです。モルガント様とも、それ以来お会いしていません。

エリー ： 父って言ってるけど……　お父さんはララフェル族で、あなたはヒューラン族よね。もしかして、血の繋がりは無いのかしら？

アラベラ ： ええ、そのとおりです。貧民街で飢えていた幼少期に、引き取っていただきました。実は、レウェンも私と同じ生い立ちなのです。
私たちにとって、父は救世主です。そんな父の面目をつぶすわけにはいきませんからね、私が婚約を断ることはできないのです。

ヒルディブランド ： むむ、いけませんな。自分がしたいようにするのが一番ですぞ。御覧ください、この解放的な私の姿を！

エリー ： ……アンタはちょっと、自由すぎる例だけどね。さぁ、そろそろ時間だわ。皆でコスタ・デル・ソルに行きましょう。

アラベラ ： 私は準備をしてから、レウェンと向かいますね。コスタ・デル・ソルでお会いしましょう。

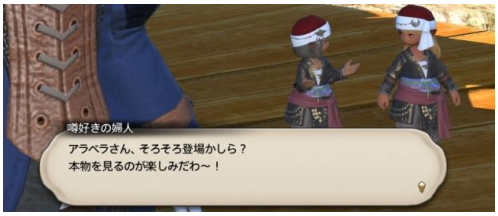
るり色の婚約者

ヒルディブランド ： さて、アラベラ殿の無事も確認できたことですし、ついに、「怪盗白仮面」との対決の時ですな。
……なに、不安な顔をすることはありません。「マンダヴィル流交渉術」で鍛えあげた推理力で、
私がすぐに変装を見破ってみせますからな！
そうだ、アラベラ殿を救ったあかつきには、冒険者殿にも、この思考体操の術を教えましょう！
今後の冒険に必要……というものではありませんが、私は、毎晩就寝前に行っていましたからな！
続ければ、私のような事件屋になれるかもしれませんぞ？
……おっと、余談が過ぎましたな。それでは、終幕の地……コスタ・デル・ソルに戻りますぞ！

ヒルディブランド ： だいぶ人が増えてきましたな……。
アラベラ殿は、まもなく、こちらに到着するそうですぞ。コスタ・デル・ソルの様子はいかがですかな？

ブリアルディアン ： ……手袋をしているような客は、今のところ見当たらない。チッ、「怪盗白仮面」は近くにいるはずなのに……！

噂好きの婦人 ： アラベラさん、そろそろ登場かしら？　本物を見るのが楽しみだわ～！



ブリアルディアン ： ……もう時間がないな。こうなったら、アラベラを舞台にあげるのを止めるしかない。

エリー ： でも、そんなことをしたら、ヴァンネスやモルガントたちが怒るんじゃない？

ブリアルディアン ： フン、知ったことか。ヴァンネスたちのことはきっと……　このボンコツ事件屋がなんとかするはずだ。

ヒルディブランド ： ええ～っ、私ですか～！？

ブリアルディアン ： 憎まれ役だが、彼女を守るための名誉ある仕事だ。ヴァンネスたちを、うまく抑えてくれ。

ヒルディブランド ： ……ブリ殿、わかってくれたのですね！　ヴァンネス殿のことは、優秀な事件屋の私にお任せあれ！

ブリアルディアン ： ……単純なやつだ。さて、そうと決まったら、アラベラを隠したほうがいいな。変装用に、地味な服があればいいが……。

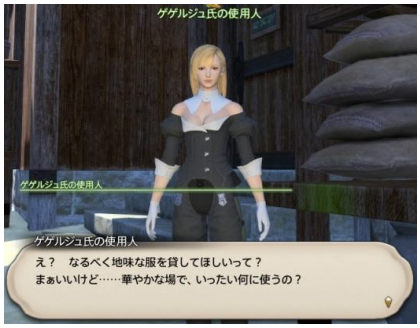
エリー ： それなら、向こうの小屋にいる、ここの使用人に頼むと良いかもしれないわ。

ブリアルディアン ： それでは、◇◇◇に頼もう。受け取った服は、到着したアラベラに渡せばいい。頼んだぞ。

ヒルディブランド ： ヴァンネス殿は私におまかせあれ！　優秀な事件屋ですから、なんとかなりますぞ！

ブリアルディアン ： 使用人に、変装用の服を借りてきてくれ。受け取った服は、到着したアラベラに渡せばいい。頼んだぞ。

ゲゲルジュ氏の使用人 ： 今日のコスタ・デル・ソルは、なんだか華やかね。お偉いさんの、婚約発表があるんでしょう？
え？　なるべく地味な服を貸してほしいって？　まぁいいけど……華やかな場で、いったい何に使うの？



ゲゲルジュ氏の使用人 ： 今日のコスタ・デル・ソルは、なんだか華やかね。お偉いさんの、婚約発表があるんでしょう？

アラベラ ： あら、先ほどの冒険者さん。遅れてしまってすみません。……あら、私に何か渡すものがあるのですか？
……なるほど、舞台にはあがらず、この服に着替えて隠れておくのですね。

ブリアルディアン ： 君がアラベラか？　その衣装を着たら、会場に向かって構わない。だが、ぼくの目の届く所にいてくれ。

アラベラ ： でも……そんなことしたら、父やヴァンネス様が怒ってしまうはずです……。

ブリアルディアン ： そっちは、ポンコツ事件屋が何とかするはずだ。貴方はまず「怪盗白仮面」から、自分の身を守ることを考えろ。
……やつは、ぼくを殺そうとするほど危険なのだから。

レウェンハート ： ……そうでしたね。アラベラ様、彼らの指示に従いましょう。

アラベラ ： でも、そんなことをしたら、貴方だって……。

レウェンハート ： いいのです……いや、僕は初めから止めるべきだったんだ。それに、こうやって事件屋も動いてくれています。
きっとうまくいきますよ。

アラベラ ： ……わかりました。幌の中で着替えをしてきます、少しお待ちください。
準備ができました。そうだ、着替えたあとの服は、どうすればよろしいでしょうか？

ブリアルディアン ： そうだな、◇◇◇、雑用担当のポンコツ事件屋にでも渡しておいてくれ。……それでは、会場に戻ろう。

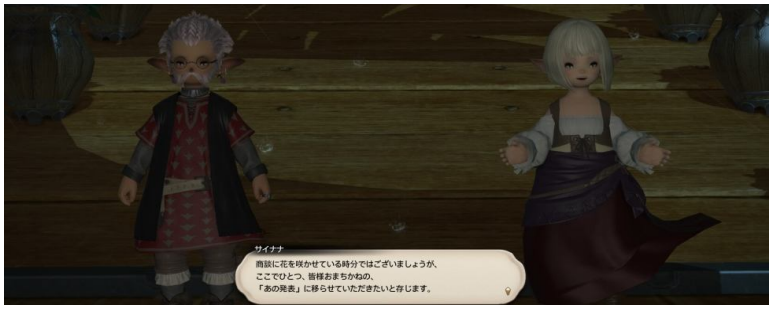
ブリアルディアン ： ……なんとしてでも、「怪盗白仮面」を見つけ出すぞ。

ヒルディブランド ： 私は今、ヴァンネス殿をごまかすための、作戦を練っているのですが……　冒険者殿、何か御用でも？
これは、アラベラ殿のドレス……？　フッフッフ、なるほど……確かに預かりましたぞ！
さぁ、そろそろパーティーが始まるようです。私はヴァンネス殿の元に向かいましょう。
冒険者殿は、その辺りでお待ちください。
……大丈夫ですとも。この事件屋ヒルディブランド、必ずや「怪盗白仮面」を見つけ出してみせましょう！

ブリアルディアン ： ……チッ、右手の怪我が目印になるとはいえ、こうも人がいると、さすがに探すのが難しいな。

ヤルト・ノルト ： 皆様、本日はブルゲール商会と東アルデナード商会の交流パーティーに、よくぞお集まりいただきました。

サイナナ ： 商談に花を咲かせている時分ではございましょうが、ここでひとつ、皆様おまちかねの、
「あの発表」に移らせていただきたいと存じます。



楽しそうな商人 ： 噂の「るり色の乙女」のご登場か！？　ヴァンネス様にふわさしい美女……楽しみだなぁ！

モルガント ： えー、東アルデナード商会の重役令嬢アラベラさんと、ブルゲール商会の次期会長である我が息子ヴァンネスが、
正式に婚約をすることになりました。
今日は、この場でヴァンネスが、アラベラさんとの永遠の愛を誓うと言っております。皆様、ぜひ見届けていただけますかな？
それでは、アラベラさんをお招きいたしましょう！

ブリアルディアン ： チッ……あのボンコツ事件屋、ヴァンネスたちを抑えることができなかったのか！？

ナシュ・マカラッカ ： わ～、アラベラさん、とっても綺麗です～！

ヴァンネス ： ……ふん、噂の美女だからな。綺麗なのは当たり前だろう。
リムサ・ロミンサへようこそ、アラベラさん。あなたを娶ることができて、俺は幸せだ。

アラビィブランド ： ダーリン、お待たせしましたな！　アラベラが到着しましたぞ！！

ヴァンネス ： だだ、だだだだ、誰だこの変態は！！

ブリアルディアン ： ……ぼくは確かに、ヴァンネスは任せたといった。だが、そういう意味ではないぞ……？

ヒルディブランド ： 皆さん、落ち着いてください。この事件屋ヒルディブランドの冴え渡る第七感が、「怪盗白仮面」の正体をキャッチしましたぞ！
「怪盗白仮面」が変装している人物……。それは、このヴァンネス殿ですぞ！！

ヴァンネス ： は……はぁ？

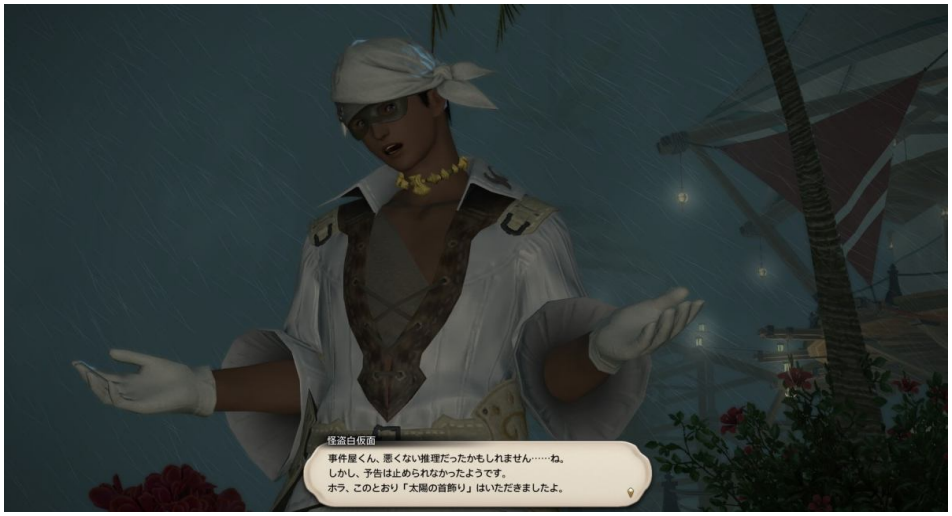
ヒルディブランド ： まず、今回のパーティーの参加者の中で、アラベラ殿の素顔を知っていたのは、ググレム殿とレウェンハート殿だけ。
しかし、もうひとり、アラベラ殿の顔を知っている人がいます。それは、アラベラ殿を狙っている「怪盗白仮面」。
標的なのですから、当然情報は集めているはず！
つまり……私の完璧な変装を前にして、「私がアラベラ殿ではない」と瞬時に見抜いたことが、ひとつの真実を示しているのです！
フフフ、皆さんもうわかりましたね？　私の変装に一番はじめに気づいてしまった、
ヴァンネス殿……あなたが「怪盗白仮面」ですぞ！！

全員 ： ……誰だって気づくわ！！！！！！！！！！

ヴァンネス ： まったくだ、なんなんだあの変態は……！　俺に恥をかかせやがって！
……アラベラ？　なんだ、いるじゃないか！　早くこちらに来い！！

ブリアルディアン ： あの手袋……ま……さか！？

怪盗白仮面 ： 事件屋くん、悪くない推理だったかもしれません……ね。しかし、予告は止められなかったようです。
ホラ、このとおり「太陽の首飾り」はいただきましたよ。



ググレム ： ま、まさか……奴が「怪盗白仮面」か！？　おい、お前ら、ボサっとしてないで捕まえろぉお！！

ヒルディブランド ： ややっ、わざわざ追ってきたのですか……！？　もしかして、私の……ファンに？

怪盗白仮面 ： 銅刃団ご自慢のガーベラ部隊も、私の敵ではありません。……それでは紳士淑女の皆様、またお会いいたしましょう！

エリー ： 本物のヴァンネスは見つかったみたいよ。なんだか、いろいろ大変だったわね……。

アラベラ ： ヒルディブランドさんの変装を信じた方がいたみたいで、「るり色の乙女」についての悪評が広まっているそうです。
……そのせいで、婚約を取り下げられちゃいました！
フフ、相手方が断っているのですから仕方ありません。だから……今度は、自分がしたいようにしてみようと思います。
……ヒルディブランドさん、あなたのおかげです。

エリー ： ……あんた、早く着替えなさいよ。
それにしても、不思議ね。「るり色の乙女の唇をいただく」っていう予告状だったのに、
今回の狙いは、アラベラさんの首飾りだったなんて。

レウェンハート ： そ、そういえば、あの「太陽の首飾り」は、太陽の女神アーゼマの意匠が凝らされているため、
「アーゼマの口づけ」……という異名を持つと聞きました。

ブリアルディアン ： るり色の乙女アラベラが持つ、アーゼマの口づけ…… それで「るり色の乙女の唇」だったの
チッ、次の予告状は注意して解読しなければならないな……。

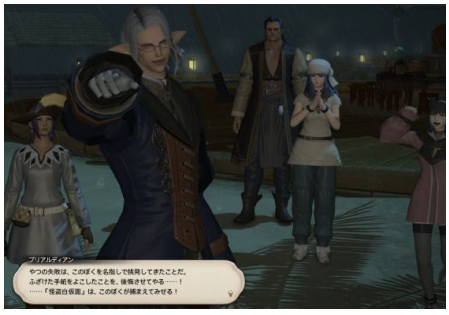
ナシュ・マカラッカ ： このカードには「フェイク」って書いてあります～！

ブリアルディアン ： クソッ、奴め遊んでいるな……！ 見せろ！
『勝者にあたえられしコロセウムの秘宝を いただきに参ります』
……フッ……なるほど。
どうやら、ぼくを爆死させる予告は止めたようだ。……とはいえ、いつ再び蛮行に及ぶかわからない。
今後も、十分に気をつけなければな。

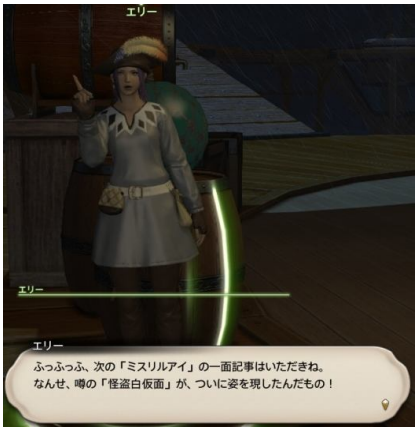
ヒルディブランド ： え、ええ……そ、そうですな。ま、まぁそのような卑劣な真似をする前に……。

ブリアルディアン ： やつの失敗は、このぼくを名指しで挑発してきたことだ。ふざけた手紙をよこしたことを、後悔させてやる……！
……「怪盗白仮面」は、このぼくが捕まえてみせる！

ヒルディブランド ： ……そ、そ、そうですな！ 「怪盗白仮面」が全部悪いですからな！ 我々が絶対に捕まえますぞー！ うむ！！



秘宝の入手方法は　アマジナ杯闘技会で優勝すること！？
歴戦の覇者……その輝かしい笑顔に潜む黒い影！
絶対的な強さの秘密は　珍妙は風貌の「受付」に……！
次回「のこされたメッセージ」
偉大な事件屋に　勝利はつきものですぞ！

ナシュ・マカラッカ　：　今度の事件解決の鍵は「倉庫の鍵」です～！　大事なものは、大切にしまわなきゃだめですよ～！
事件当日まで何が起こるかわかりませんっ！　実際の事件現場を目撃することになるのは……　アナタですよ～！

エリー　：　ふっふっふ、次の「ミスリルアイ」の一面記事はいただきね。なんせ、噂の「怪盗白仮面」が、ついに姿を現したんだもの！
次の予告は確か、「アマジナ杯闘技会の賞品」だったわね。地元ウルダハのコロセウムの興行なんだから、
私がバッチリ下調べしておくわね。